

藤嶺藤沢高校だより

2026年5月15日(金)発行

藤嶺学園藤沢高等学校 〒251-0001 藤沢市西富 1-7-1
Tel 0466-23-3150
<https://www.tohrei-fujisawa.ed.jp/>

(編集・発行：教頭 香西 義之)

【ニュージーランド留学フェア】— 7校の現地校が来校、高まる国際交流への関心 —

5月9日(土)、本校にて「ニュージーランド留学フェア」を開催いたしました。当日はニュージーランドより男子校5校、女子校2校、計7校の先生方にご来校いただき、本校をはじめ、藤沢翔陵高等学校、鶴沼高等学校、聖園女学院中学高等学校などから、多くの生徒・保護者の皆様にご参加いただきました。



特に、本校の生徒・保護者だけで約80組もの参加があったことは、本校家庭の国際教育や海外留学への関心の高さを示すものとなりました。さらに他校からの参加者も加わり、校内は終日にわたって大変な賑わいを見せました。海外の複数の現地校を一度に招き、学校主催でこれほど大規模な留学フェアを実施している高校は珍しく、本校ならではの特色ある国際交流行事となりました。

地下ホールで行われた全体会では、林校長による挨拶に続き、本校の留学プログラム概要説明、そして各現地校による学校紹介が行われました。各校の特色ある教育内容や学校生活、スポーツや文化活動などについて、現地の先生方が直接英語で紹介し、参加者の方々は真剣な表情で耳を傾けていました。

午後からはICT教室にて個別相談会を実施しました。参加者は興味のある学校のブースを自由に訪問し、「通学手段はどうなっているのか」「ホームステイはどのような環境か」「運動クラブには自由に入れるのか」など、具体的な質問を積極的に投げかけていました。各ブースには本校英語科教員が通訳として付き、参加者と現地校の先生方をつなぐ役割を果たしました。また、本校生によるターム留学経験者ブースも大変な賑わいを見せ、実際に長期留学を経験した生徒たちの生の声に、多くの参加者が熱心に聞き入っていました。



本校では近年、交流校と「顔の見える関係」を大切にしながら、ニュージーランドの学校との連携を深めております。今回参加した学校の中には、すでに本校生徒が短期・長期留学で訪れている学校も多く、生徒同士の交流や相互訪問を通じて、年々つながりが強まっています。前日に来日した先生方には、遊行寺での宿泊や茶道体験にも参加していただき、日本文化への理解も深めていただきました。

今回の留学フェアは、多くの皆様のご協力のもと、大変盛況のうちに終了いたしました。本校では今後も、生徒たちが世界へ視野を広げ、自らの可能性を大きく伸ばしていくことができるよう、国際交流・留学プログラムのさらなる充実に努めてまいります。

【開校記念講演会】

5月13日、本校開校記念講演会が行われ、本校卒業生であり、認定NPO法人アクセプト・インターナショナル代表理事の永井陽右先輩を講師としてお迎えしました。現在、永井さんはソマリアをはじめとする紛争地において、テロや武装勢力に関わる若者たちの社会復帰支援に取り組み、国際的にも高い評価を受けています。

永井さんは高校時代の自分について「本当に勉強しなかった」と率直に語りました。また、当時は周囲の大人たちに対する強い反発心を抱えていたことにも触れ、「世の中を分かったように語る大人への違和感があった」と振り返りました。その反発心こそが、自らを危険な紛争地・ソマリアへと向かわせる原動力になったと語り、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。

講演では、ソマリアの現状や、これまで永井氏が現地で行ってきた活動について、多くの写真や実例を交えながら紹介されました。中でも特に印象的だったのは、「憎しみの連鎖を解く」という言葉でした。現地では、家族や親族、大切な人を殺されたことへの復讐心から武装勢力へ加わる若者が少なくないそうです。しかし、たとえ復讐を果たしたとしても、そこで新たな憎しみが生まれ、さらに別の復讐へとつながっていく――その連鎖は終わることがありません。永井氏は、「憎しみを暴力で解決しようとしても、本当の解決にはならない。その連鎖を断ち切るこそが自分たちの仕事だ」と語りました。その言葉には、紛争地で現実と向き合ってきたからこそその重みがあり、生徒たちも静かに聞き入っていました。

また、「上から目線で説得しても人は変わらない。まず相手を受け入れることが大切だ」という話も、生徒たちに強い印象を残しました。武装勢力に加わった若者たちとも真摯に向き合い、その背景や苦しみを理解しようとする姿勢からは、人と向き合うことの本質が伝わってきました。

最後に後輩たちへのメッセージとして、「“自分に何ができるか”を考える必要はない。今の能力は関係なく、誰にでも無限の可能性がある」と語られました。また、「YouTubeばかりを見るのではなく、本を読み、何より自分自身で考えてほしい。SNSで無駄な時間を過ごしてはいけない。本物のプロフェッショナルはSNS上にはいない」という言葉も、生徒たちの胸に強く響いていたようです。さらに、「多くの人が“好きでもなく、得意でもないこと”を、あえて誰が担うのかを考えてほしい」というメッセージには、生徒たちも自らの将来や社会との関わり方について改めて考える機会を与えることになりました。

講演中、生徒たちは終始集中して話に聞き入り、永井先輩の話に惹きこまれているようでした。講演後の質疑応答では、「組織から抜け出したいテロリストにどう接するのか」「宗教的な信条を持つ人の考えをどうやってかえるのか」等を質問する生徒たちの手が次々に挙がり、時間いっぱいまで質問が途切れることはありませんでした。国際問題や紛争地域への関心だけでなく、「どう生きるべきか」「自分は何を目指すべきか」という問いを、生徒たち一人ひとりが真剣に考える貴重な機会となりました。

世界の最前線で活動を続ける卒業生の姿は、生徒たちにとって大きな刺激であると同時に、「自分自身の可能性」について考えるきっかけとなったことでしょう。



【6月中旬までの主な行事予定】

【5月】

18日(月)～21日(木) 1学期中間試験

21日(木) 総合検診(高校10:30登校)

22日(金) 教育実習生受け入れ開始・英検(希望者)第1回全統高2模試

23日(土) 自宅学習日

25日(月)～28日(木) 体育祭準備期間

29日(金) 体育祭リハーサル

30日(土) 体育祭

【6月】

1日(月) 朝礼・夏服更衣

2日(火) 体育祭予備日

3日(水) 大学入試結果報告会 学級PTA(PM)

10日(水) 高1学林

11日(木) 教育実習終了

13日(土) いじめ防止講演会・いじめ防止ワークショップ(高1DEF組)

16日(火) 保健講演会(高1・2)